

平成17年5月5日

各 位

会 社 名 京セラ株式会社  
代表者名 取締役社長 西口 泰夫  
(コード番号 6971 東証・大証第1部)  
問合せ先 財務部長 豊谷 晃彦  
(TEL 075-604-3500)

## 京セラグループ移動体通信機器事業の強化について

京セラ株式会社(本社:京都市、社長:西口泰夫)は、北米地区にあるCDMA携帯端末設計販売会社、Kyocera Wireless Corp.(以下KWC)を中心とした移動体通信機器事業のさらなる強化を図るため、かねてより同事業の再構築を進めてまいりました。このたび、その一環としてKWCがおこなう端末の製造、客先への配送について、最大手の委託生産専門会社であるFlextronics International Ltd(以下Flex社、本社:シンガポール、CEO:Mr.Michael Marks)へアウトソーシングし、これに伴い製造設備、部品在庫等を売却することいたしました。

KWCはCDMA端末の研究開発・設計・販売・マーケティングに特化し、ローエンドからハイエンド製品における市場での競争力を高めてまいります。

現在京セラグループは、CDMA携帯端末の開発、製造、販売をワールドワイドでおこなっており、日本、中国、北米、中南米、オーストラリア、インド等において、年間約1,300万台の製品供給をおこなっています。携帯端末市場において益々競争が激化する中、同事業において京セラグループがさらなる競争優位性を確保し続けるためには、各国の市場のニーズにマッチした製品開発と同時に、事業全体のコスト競争力を高めることが不可欠となっています。

今般の事業再編によって経営リソースを研究開発・設計・販売・マーケティングに集中することで、より一層の開発力の向上を図るとともに、日本、北米、インドに有するR&D拠点の相互連携をさらに推進し、EV-DOカード等ハードの活用やプラットフォームの共通化など、シナジーによるグループの総合力を発揮し、各国の市場のニーズにマッチした製品を供給してまいります。

また、KWCでは、すでにサービス部門のアウトソーシングをおこなっておりますが、今後、最大手の携帯端末の委託生産をおこなうFlex社をパートナーとすることにより、大幅なコスト改善によって事業強化をおこない、収益向上を図ってまいります。Flex社の垂直統合された製造モデルを活用することで経営効率を上げてまいります。

KWCでは、主に北米、南米等で月約100万台のセールスをおこなってきた販売力、マーケティング力を有しており、この知見を、今後市場拡大が期待されるインドや中南米においても活用し、本年度、同事業全体で約1,500万台の製品供給を目指し、さらなる収益向上とグローバルな携帯端末市場での地位を確立してまいりたいと考えています。

## 業績予想に関する注意事項

この配布資料に記載されている記述には、1934年米国証券取引所施行 21E 条に定義される「将来予想に関する記述」(forward-looking statements)が含まれています。これらの将来予想に関する記述は、現時点で入手できる情報に鑑みて当社が予想を行い、所信を表明したものであります。これらの将来予想に関する記述は、既知及び未知のリスク、不確実な要因及びその他の要因を含んでいます。かかるリスク、不確実な要因及びその他の要因は以下のものを含みますが、これらに限られるものではありません。(1)当社が関連する市場の状況(特に、日本、米国、欧州及びアジア(中国を含む)の経済状況)。(2)円と当社の売上高の相当な部分を構成している通貨(特に、米ドル及びユーロ)との為替レート。(3)競争の厳しいセラミック、半導体部品及び電子部品市場における当社の、革新的な製品を提供し、顧客の要求に沿った先進技術を投入する能力。(4)通信やパーソナルコンピュータを含む世界の情報技術市場の将来における成長または縮小の規模及び速度。(5)テロ行為、SARS などの疫病の発生、その他当社の市場やサプライチェーンに混乱を与える可能性のある要素。かかるリスク、不確実な要因及びその他の要因により、当社の実際の業績、事業活動、展開または財務状況は、これらの将来予想に関する記述に明示または包含される将来の業績、事業活動、展開または財務状況と大きく異なる場合があります。当社は、この配布資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

以上